



下和泉小だより

横浜市立下和泉小学校

副校長 玉置 智子

梅雨が明け、校庭の紫陽花も少しずつ色あせてきました。月日がたつのも早いもので、4月より3か月あまりが過ぎました。花壇や植木鉢には、子どもたちが毎日世話をしているピーマンやなすやオクラが実をつけ、収穫が始まりました。子どもたちは、梅雨の晴れ間におにごっこをしたり、ボール遊びをしたり、鉄棒をしたりして友だちとのかかわりを楽しんでいます。



さて、3年生の社会科の学習では、まち探検を通して下和泉の地域を探検し、夏野菜を育てている畑が多く、無人販売所があることが分かりました。高いビルもなく緑が多い公園があり自然豊かなまちだと感じていました。5月24日（火）には、相鉄線ゆめが丘駅から横浜駅まで電車に乗り横浜駅の「うみそらデッキ」へ行きました。電車の中では、一人ひとりがマナーを守り、

周りへの気づかいをしながら過ごすことができましたようです。また、車窓から見える建物や施設、土地の様子などをしっかり観察し、自分たちの住む泉区から西区までの町の様子の変化に気づくことができていたそうです。帰ってきた子どもたちからは、「うみそらデッキでは、海が見えたよ。」「ランドマークや高いビルがたくさん見えたよ。」「横浜のビルから下を見たら、車が小さかった。」「電車に乗って色々な町の様子が知れたよ。」と横浜の中心地から見える景色に感動していました。初めての社会科見学でしたが、一人ひとりが目的意識をしっかりとつことができ、よい経験となりました。

また、6月29日（水）には、6年生による「よこはま子ども国際スピーチコンテスト泉区審査会」が開催されました。「よこはま子ども国際スピーチコンテスト」とは、「持続可能な開発目標（SDGs）」に基づき、貧困をなくすことや持続可能なまちや地域社会への対応など、国際平和のために児童が取り組みたいことをスピーチで表現するものです。下和泉小学校代表を決める際には、国際平和のために、食品ロスについてや電気のエネルギーについてなど、一人ひとりの意識から誰もが平等に幸せな未来をつくるために取り組みたいことを話す堂々とした6年生の姿にとっても頼もしく思いました。学校を出発する前に正門前で、本校の代表として出場する寺本さんに「寺本さん、頑張っ



ね！」「落ち着いて！」「練習とおりに自信をもって！」と応援する子どもたちの姿を見て6年生の仲間意識の強さを感じました。

子どもたちは、体験したり調べたり考えたりして成長していきます。これからも、学校の様々な教育活動や取り組みから下和泉の子どもたちが成長する大きなチャンスがもてるよう、私たち教職員も見守っていききたいと思います。